

「神の国」(補足資料 22.9.21)

訳注：旧約聖書に起源がある”神の国“（ギリシア語：basileia tou theou）という言葉は、適切な言葉とはいえない。”神の国“というのは、”神の王的支配“・”神の王権“・”神の権威“などと言い換えることができる。

「神の国は近づいた」(マルコ 1:15)。これが、イエスと洗礼者ヨハネの宣教の第一声である。

したがって、イエスの使命は、この地上に神の国を実現させるためにこの世に来られたのである。

【旧約】

”神は王である”とは、古代オリエントの諸宗教に共通にみられる。まず、神話の世界では、王である神の代理を地上でつとめる国王に神聖な意味を与えるために、この考えが利用されたと言えよう。旧約聖書も同じような考えが利用されているが、そこでは、イスラエル民族が信じている唯一神・政治権力・終末などに関する世界観のため、その内容は独特なものと言えよう。

I 神が王として支配するイスラエル

ちなみに、アブラハムの神・イサクの神・ヤコブの神である主なる神は、その名をモーセに知らせたときにも（出エジプト 3:14 参照）、王という印象は与えていない。

しかし、イスラエルがカナンに定住するようになると間もなく、主なる神とその民との関係が王と臣下しんかという象徴的な関係で示されるようになる。

・士師 8:23;サムエル上 8:7;イザヤ 6:1-5;詩編 24:7-10 参照。

II 王としての神の支配とイスラエルの王国

神が王として支配するイスラエルも、時代と共に変化していく政治構造をもつ。早速、王制に反対する動きもあり（サムエル上 8:1-21 参照）、他方では、神から遣わされた人物が現れて、サウル（10:24）やダビデ（16:12）、さらにダビデ王朝（サムエル下 7:12-16）が主なる神の選びにかなう者であることを証明した理由が説明される。